《第93回》令和三年三月の作品

〈三月十二日（金）通信句会〉

先駆けて辛夷咲き初む登山口　（正雄）

早春や光降り来る庭に佇（た）つ　（前歩）

秦嶺の山脈（やまなみ）険し薄霞　（清助）

山独活に酢味噌を添へて朝餉かな　（孝昭）

子等走る野原一面いぬふぐり　（隆治）

杖をつき古老ひなたに入り彼岸　（正佳）

リンゴ剥く皮つながりて良きしるし　（平六）

満作は若者のごと咲く花よ　（貴美）

帰りたい帰れない町春の星　（芙紗）

庭先に蕗の薹四つ妻の手に　（奉男）

ものの芽の武蔵野にして独歩の碑　（一江）